

滅菌製剤 外用殺菌消毒剤

## エタノール8%添加 ベンザルコニウム塩化物0.1%液

販売名 ヤクゾールE液0.1



エタノール8%添加  
ベンザルコニウム塩化物0.1%液  
販売名 ヤクゾールE液0.1

## 目 次

1. 特 徴 .....	1
2. 組成・性状 .....	1
3. 効能又は効果 .....	1
4. 用法及び用量 .....	1
5. ベンザルコニウム塩化物耐性セラチアに 対する消毒効果 .....	2

# エタノール8%添加 ベンザルコニウム塩化物0.1%液

販売名 ヤクゾールE液0.1

## 1. 特徴

本剤は有効成分として**ベンザルコニウム塩化物**を0.1W/v%配合し、消毒剤の微生物汚染を防ぐためにエタノールを8vol%添加して、高圧蒸気滅菌処理を施した製剤です。グラム陽性菌、陰性菌及び真菌に対して消毒効果を示します。

## 2. 組成・性状

**組成**：有効成分100mL中 濃ベンザルコニウム塩化物液50 0.190g  
(ベンザルコニウム塩化物として0.100g)

添加剤 エタノール(8vol%)

**製剤の性状**：無色澄明の液で、特異なおいがある。

振ると強く泡立つ。滅菌製剤

## 3. 効能又は効果

- 手指・皮膚の消毒
- 手術部位(手術野)の皮膚の消毒
- 医療機器の消毒
- 手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒

## 4. 用法及び用量

### 手指・皮膚の消毒

通常石けんで十分に洗浄し、水で石けん分を十分に洗い落した後、ベンザルコニウム塩化物0.05～0.1%溶液に浸して洗い、滅菌ガーゼあるいは布片で清拭する。術前の手洗いの場合には、5～10分間ブラッシングする。

### 手術部位(手術野)の皮膚の消毒

手術前局所皮膚面をベンザルコニウム塩化物0.1%溶液で約5分間洗い、その後ベンザルコニウム塩化物0.2%溶液を塗布する。

### 医療機器の消毒

ベンザルコニウム塩化物0.1%溶液に10分間浸漬するか、または厳密に消毒する際は、器具を予め2%炭酸ナトリウム水溶液で洗い、その後ベンザルコニウム塩化物0.1%溶液中で15分間煮沸する。

### 手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒

ベンザルコニウム塩化物0.05～0.1%溶液を布片で塗布・清拭するか、または噴霧する。

# エタノール8%添加 ベンザルコニウム塩化物0.1%液

販売名 ヤクゾールE液0.1

## 5. ベンザルコニウム塩化物耐性セラチアに 対する消毒効果

### 目的：

**ベンザルコニウム塩化物**(以下、BAC)は低水準消毒薬に分類され、グラム陽性菌、陰性菌及び真菌に対して有効である。しかし、耐性を示す菌の存在も報告されており(表1)、使用時には注意を要する。なかでもセラチア菌(*Serratia marcescens*)はBACに対する抵抗性が強く、院内感染の起炎菌にもなりやすい。そこで、試験管内で*Serratia marcescens* 標準菌株をBACに馴化させ、耐性能を獲得させた株を用いて、**ヤクゾールE液0.1**(8vol% エタノール添加 0.1W/v% BAC水溶液)の消毒効果を 0.1W/v% BAC水溶液と比較検討した。

表1 ベンザルコニウム塩化物に耐性を持つ微生物

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| • 緑膿菌               | • 表皮ブドウ球菌          |
| • アルカリゲネス・キシロソキシダンス | • セパシア菌            |
| • アスペルギルス・ニガー       | • シュードモナス・フルオレッセンス |
| • セラチア菌             | • アルカリゲネス・フェカーリス   |

### 方法：

薬剤	<b>ヤクゾールE液0.1</b> 0.1W/v% BAC水溶液(0.1%水溶液)
菌種	<i>Serratia marcescens</i> IFO 3759(標準菌株) <i>Serratia marcescens</i> (耐性獲得菌株)* <small>※ 600μg/mL BACに耐性の菌株</small>
前培養用培地	標準寒天培地「ニッスイ」(寒天培地) 感受性測定用ブイヨン「ニッスイ」(液体培地)
培地	寒天培地 600μg/mL BAC添加寒天培地(BAC添加寒天培地)
不活化剤	15W/v% Tween80 (ポリソルベート80) 溶液

標準菌株は保存菌株より寒天培地に塗抹後、33℃で24時間培養し、これを3代継代した。耐性菌株は600μg/mL BAC添加液体培地中で継代後、BAC添加寒天培地に塗抹し、33℃で24時間培養した。各々形成されたコロニーを採取し、 $10^5 \sim 10^6$ CFU/mLとなるよう滅菌精製水に懸濁し、供試菌液とした。

供試菌液0.5mLを薬剤各9.5mLと混和し、室温で放置した。0.5、1、2、5、10、30および60分接触後、直ちに0.1mLをとり、不活化剤0.9mLと混和して薬剤を中和した。この液0.1mLを寒天培地に塗抹し、33℃で24時間培養し、各接触時間における生残菌数を求めた。

# エタノール8%添加 ベンザルコニウム塩化物0.1%液

販売名 ヤクゾールE液0.1

## 結 果：

### 1. 標準菌株に対する消毒効果

結果を図1に示す。各薬剤と標準菌株を所定の時間接触させた後の生残菌数の対数値をとり、これをプロットして生残菌数曲線を作成した。**ヤクゾールE液0.1**および0.1%水溶液のいずれも30秒以内に標準菌株を死滅させた。

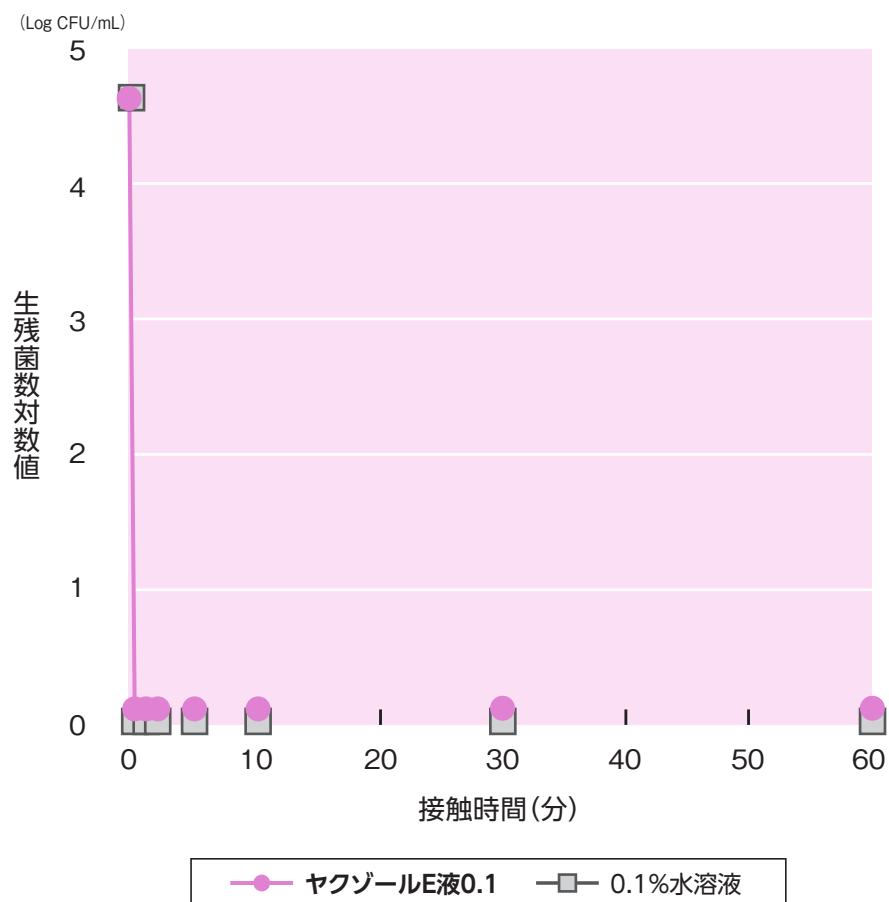


図1 生残菌数曲線(標準菌株)

# エタノール8%添加 ベンザルコニウム塩化物0.1%液

販売名 ヤクゾールE液0.1

## 2. 耐性菌株に対する消毒効果

結果を図2に示す。各薬剤と耐性獲得菌株を所定の時間接触させた後の生残菌数の対数値をとり、これをプロットして生残菌数曲線を作成した。0.1%水溶液は、60分間接触させても耐性獲得菌株を死滅させることができなかった。一方、**ヤクゾールE液0.1**は10分間の接触で生残菌数を $10^{-3}$ 以下に減少させ、30分間で完全に死滅させた。

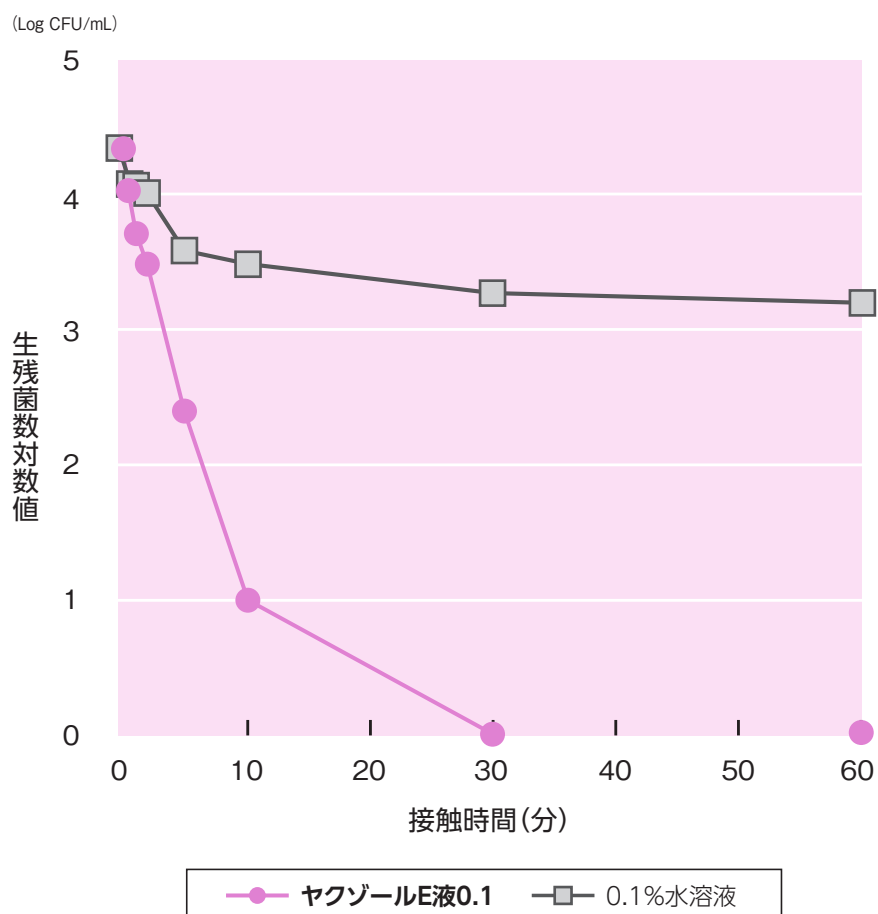


図2 生残菌数曲線(耐性獲得菌株)

## 参考文献

- 1) ヤクハン製薬株式会社 社内資料：耐性菌消毒効果

商品名	和名	エタノール8%添加 ベンザルコニウム塩化物0.1%液 販売名「ヤクゾールE液0.1」	薬効分類名	外用殺菌消毒剤	日本標準商品 分類番号	872616																					
	洋名	Yakuzol E Solution	薬価基準	収載	承認年月日	2003年3月14日																					
承認番号	21500AMZ00244000		販売開始	2005年11月	薬価収載年月	2003年7月																					
発売元	サラヤ株式会社		製造販売元	ヤクハン製薬株式会社																							
組成・性状	1. 組成		薬効薬理	1. 作用機序 タンパク質変性及び酵素の切断、糖の分解と乳酸の酸化など代謝への作用、膜透過性障害による溶菌、リン及びカリウムの漏出、解糖の促進、原形質膜の活動を支える酵素に対する作用などが考えられている <sup>1)</sup> 。																							
	有効成分	100mL中濃ベンザルコニウム塩化物液50 0.190g(ベンザルコニウム塩化物として0.100g)		2. 殺菌作用 (1) グラム陽性、陰性菌のみならず、芽胞のない細菌やカビ類といった真菌類に対しても殺菌作用を有する。結核菌及び大部分のウイルスに対する殺菌効果は期待できない <sup>1)</sup> 。 (2) 供試菌株に対するヤクゾールE液0.1の最小発育阻止濃度(MIC)及び最小殺菌濃度(MBC)は以下のとおりであった <sup>2)</sup> 。																							
効能又は効果 用法及び 用量	2. 製剤の性状：無色透明の液で、特異なおいがある。振ると強く泡立つ。滅菌製剤		薬効薬理	<table border="1"> <thead> <tr> <th>供試菌株</th> <th>MIC (<math>\mu\text{g}/\text{mL}^{\ast}</math>)</th> <th>MBC (<math>\mu\text{g}/\text{mL}^{\ast}</math>)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><i>Staphylococcus aureus</i> IFO 13276</td> <td>3.9</td> <td>15.6</td> </tr> <tr> <td><i>Escherichia coli</i> IFO 3972</td> <td>31.3</td> <td>31.3</td> </tr> <tr> <td><i>Pseudomonas aeruginosa</i> IFO 13275</td> <td>125</td> <td>125</td> </tr> <tr> <td><i>Serratia marcescens</i> IFO 3759</td> <td>125</td> <td>250</td> </tr> <tr> <td><i>Burkholderia cepacia</i> IFO 14595</td> <td>125</td> <td>125</td> </tr> <tr> <td><i>Candida albicans</i> IFO 1594</td> <td>7.8</td> <td>15.6</td> </tr> </tbody> </table> <p><small>※：ベンザルコニウム塩化物として</small></p>			供試菌株	MIC ( $\mu\text{g}/\text{mL}^{\ast}$ )	MBC ( $\mu\text{g}/\text{mL}^{\ast}$ )	<i>Staphylococcus aureus</i> IFO 13276	3.9	15.6	<i>Escherichia coli</i> IFO 3972	31.3	31.3	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> IFO 13275	125	125	<i>Serratia marcescens</i> IFO 3759	125	250	<i>Burkholderia cepacia</i> IFO 14595	125	125	<i>Candida albicans</i> IFO 1594	7.8	15.6
	供試菌株	MIC ( $\mu\text{g}/\text{mL}^{\ast}$ )		MBC ( $\mu\text{g}/\text{mL}^{\ast}$ )																							
<i>Staphylococcus aureus</i> IFO 13276	3.9	15.6																									
<i>Escherichia coli</i> IFO 3972	31.3	31.3																									
<i>Pseudomonas aeruginosa</i> IFO 13275	125	125																									
<i>Serratia marcescens</i> IFO 3759	125	250																									
<i>Burkholderia cepacia</i> IFO 14595	125	125																									
<i>Candida albicans</i> IFO 1594	7.8	15.6																									
使用上の注意	1. 副作用 次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には使用を中止するなど適切な処置を行うこと。 2. その他の副作用 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>頻度不明</td> </tr> <tr> <td>過敏症</td> <td>発疹・そう痒感等</td> </tr> </table> 3. 臨床検査結果に及ぼす影響 本剤で消毒したカテーテルで採取した尿は、スルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。 4. 適用上の注意 (1) 薬剤調製時の注意 1) 本剤は、濃度に注意して使用すること。 2) 炎症又は易刺激性の部位(陰股部等)に使用する場合には、正常の部位に使用するよりも低濃度とすることが望ましい。 3) 希釈水溶液を調製する場合は、滅菌精製水を使用すること。 4) 水や容器は微生物汚染を受けやすく、まれに消毒液に抵抗性を示す微生物が含まれることがあるので、本剤を取扱う容器類は常に清潔なものを使用し、希釈水溶液は、調製後直ちに使用すること。 5) 繊維、布(綿、ガーゼ、ウール、レーヨン等)は本剤の成分であるベンザルコニウム塩化物を吸着するので、これらを溶液に浸漬して用いる場合には、有効濃度以下とならないように注意すること。 6) 金属器具を長時間浸漬する必要がある場合には、腐食を防止するためにベンザルコニウム塩化物0.1%溶液に0.5～1.0%の亜硝酸ナトリウムを添加すること。 (2) 薬剤使用時の注意 1) 経口投与しないこと。 2) 眼に入らないよう注意すること。入った場合には水でよく洗い流すこと。 3) 皮膚の刺激症状があらわれることがあるので、注意すること。 4) 全身吸収による筋脱力を起こすおそれがあるので、炎症部位に長期間又は広範囲に使用しないこと。 5) 密封包帯、ギプス包帯、パップに使用すると刺激症状があらわれることがあるので、使用しないことが望ましい。 6) 血清、胆汁等の有機性物質は殺菌作用を減弱させるので、これらが付着している場合は、十分に洗い落としてから使用すること。 7) 石けん類は本剤の殺菌作用を弱めるので、石けん分を洗い落としてから使用すること。 8) 皮膚消毒に使用する綿球、ガーゼ等は滅菌保存し、使用時に溶液に浸すこと。 9) 合成ゴム製品、合成樹脂製品、光学器具、鏡器具、塗装カテーテル等を変質させることがあるので、注意すること。 10) 皮革製品の消毒に使用すると、変質させることがあるので、使用しないこと。 11) 吸引カテーテルの浸漬消毒に使用する本剤の溶液は、少なくとも毎日新しい溶液と取り換えること。			頻度不明	過敏症	発疹・そう痒感等	一般名：ベンザルコニウム塩化物(Benzalkonium Chloride) 化学名：Ammonium,alkyldimethyl (phenylmethyl)-,chloride 分子式： $[\text{C}_6\text{H}_5\text{CH}_2\text{N}(\text{CH}_3)_2\text{R}]\text{Cl}$ $\text{R}:\text{C}_8\text{H}_{17}\sim\text{C}_{18}\text{H}_{37}$ で主として $\text{C}_{12}\text{H}_{25}$ 及び $\text{C}_{14}\text{H}_{29}$ からなる 分子量：354.01( $\text{C}_{22}\text{H}_{40}\text{ClN}$ として) 性状：白色～黄白色の粉末又は無色～淡黄色のゼラチン状の薄片、ゼリー様の流動体若しくは塊で、特異なおいがある。 水又はエタノール(95)に極めて溶けやすく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。 水溶液は振ると強く泡立つ。 化学構造式：  $\text{R}:\text{C}_8\text{H}_{17}\sim\text{C}_{18}\text{H}_{37}$ で主として $\text{C}_{12}\text{H}_{25}$ 及び $\text{C}_{14}\text{H}_{29}$ からなる																				
		頻度不明																									
過敏症	発疹・そう痒感等																										
1. 副作用 次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には使用を中止するなど適切な処置を行うこと。 2. その他の副作用 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>頻度不明</td> </tr> <tr> <td>過敏症</td> <td>発疹・そう痒感等</td> </tr> </table> 3. 臨床検査結果に及ぼす影響 本剤で消毒したカテーテルで採取した尿は、スルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。 4. 適用上の注意 (1) 薬剤調製時の注意 1) 本剤は、濃度に注意して使用すること。 2) 炎症又は易刺激性の部位(陰股部等)に使用する場合には、正常の部位に使用するよりも低濃度とすることが望ましい。 3) 希釈水溶液を調製する場合は、滅菌精製水を使用すること。 4) 水や容器は微生物汚染を受けやすく、まれに消毒液に抵抗性を示す微生物が含まれることがあるので、本剤を取扱う容器類は常に清潔なものを使用し、希釈水溶液は、調製後直ちに使用すること。 5) 繊維、布(綿、ガーゼ、ウール、レーヨン等)は本剤の成分であるベンザルコニウム塩化物を吸着するので、これらを溶液に浸漬して用いる場合には、有効濃度以下とならないように注意すること。 6) 金属器具を長時間浸漬する必要がある場合には、腐食を防止するためにベンザルコニウム塩化物0.1%溶液に0.5～1.0%の亜硝酸ナトリウムを添加すること。 (2) 薬剤使用時の注意 1) 経口投与しないこと。 2) 眼に入らないよう注意すること。入った場合には水でよく洗い流すこと。 3) 皮膚の刺激症状があらわれることがあるので、注意すること。 4) 全身吸収による筋脱力を起こすおそれがあるので、炎症部位に長期間又は広範囲に使用しないこと。 5) 密封包帯、ギプス包帯、パップに使用すると刺激症状があらわれることがあるので、使用しないことが望ましい。 6) 血清、胆汁等の有機性物質は殺菌作用を減弱させるので、これらが付着している場合は、十分に洗い落としてから使用すること。 7) 石けん類は本剤の殺菌作用を弱めるので、石けん分を洗い落としてから使用すること。 8) 皮膚消毒に使用する綿球、ガーゼ等は滅菌保存し、使用時に溶液に浸すこと。 9) 合成ゴム製品、合成樹脂製品、光学器具、鏡器具、塗装カテーテル等を変質させることがあるので、注意すること。 10) 皮革製品の消毒に使用すると、変質させることがあるので、使用しないこと。 11) 吸引カテーテルの浸漬消毒に使用する本剤の溶液は、少なくとも毎日新しい溶液と取り換えること。			頻度不明	過敏症	発疹・そう痒感等	有効成分に関する理化学的知見 化学構造式：  $\text{R}:\text{C}_8\text{H}_{17}\sim\text{C}_{18}\text{H}_{37}$ で主として $\text{C}_{12}\text{H}_{25}$ 及び $\text{C}_{14}\text{H}_{29}$ からなる																					
	頻度不明																										
過敏症	発疹・そう痒感等																										
1. 副作用 次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には使用を中止するなど適切な処置を行うこと。 2. その他の副作用 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>頻度不明</td> </tr> <tr> <td>過敏症</td> <td>発疹・そう痒感等</td> </tr> </table> 3. 臨床検査結果に及ぼす影響 本剤で消毒したカテーテルで採取した尿は、スルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。 4. 適用上の注意 (1) 薬剤調製時の注意 1) 本剤は、濃度に注意して使用すること。 2) 炎症又は易刺激性の部位(陰股部等)に使用する場合には、正常の部位に使用するよりも低濃度とすることが望ましい。 3) 希釈水溶液を調製する場合は、滅菌精製水を使用すること。 4) 水や容器は微生物汚染を受けやすく、まれに消毒液に抵抗性を示す微生物が含まれることがあるので、本剤を取扱う容器類は常に清潔なものを使用し、希釈水溶液は、調製後直ちに使用すること。 5) 繊維、布(綿、ガーゼ、ウール、レーヨン等)は本剤の成分であるベンザルコニウム塩化物を吸着するので、これらを溶液に浸漬して用いる場合には、有効濃度以下とならないように注意すること。 6) 金属器具を長時間浸漬する必要がある場合には、腐食を防止するためにベンザルコニウム塩化物0.1%溶液に0.5～1.0%の亜硝酸ナトリウムを添加すること。 (2) 薬剤使用時の注意 1) 経口投与しないこと。 2) 眼に入らないよう注意すること。入った場合には水でよく洗い流すこと。 3) 皮膚の刺激症状があらわれることがあるので、注意すること。 4) 全身吸収による筋脱力を起こすおそれがあるので、炎症部位に長期間又は広範囲に使用しないこと。 5) 密封包帯、ギプス包帯、パップに使用すると刺激症状があらわれることがあるので、使用しないことが望ましい。 6) 血清、胆汁等の有機性物質は殺菌作用を減弱させるので、これらが付着している場合は、十分に洗い落としてから使用すること。 7) 石けん類は本剤の殺菌作用を弱めるので、石けん分を洗い落としてから使用すること。 8) 皮膚消毒に使用する綿球、ガーゼ等は滅菌保存し、使用時に溶液に浸すこと。 9) 合成ゴム製品、合成樹脂製品、光学器具、鏡器具、塗装カテーテル等を変質させることがあるので、注意すること。 10) 皮革製品の消毒に使用すると、変質させることがあるので、使用しないこと。 11) 吸引カテーテルの浸漬消毒に使用する本剤の溶液は、少なくとも毎日新しい溶液と取り換えること。			頻度不明	過敏症	発疹・そう痒感等	取扱い上の注意 1. 開封時及び開封後は、微生物による汚染に注意すること。 2. 本剤は滅菌製剤のため、開封後は速やかに使用すること。																					
	頻度不明																										
過敏症	発疹・そう痒感等																										
1. 副作用 次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には使用を中止するなど適切な処置を行うこと。 2. その他の副作用 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>頻度不明</td> </tr> <tr> <td>過敏症</td> <td>発疹・そう痒感等</td> </tr> </table> 3. 臨床検査結果に及ぼす影響 本剤で消毒したカテーテルで採取した尿は、スルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。 4. 適用上の注意 (1) 薬剤調製時の注意 1) 本剤は、濃度に注意して使用すること。 2) 炎症又は易刺激性の部位(陰股部等)に使用する場合には、正常の部位に使用するよりも低濃度とすることが望ましい。 3) 希釈水溶液を調製する場合は、滅菌精製水を使用すること。 4) 水や容器は微生物汚染を受けやすく、まれに消毒液に抵抗性を示す微生物が含まれることがあるので、本剤を取扱う容器類は常に清潔なものを使用し、希釈水溶液は、調製後直ちに使用すること。 5) 繊維、布(綿、ガーゼ、ウール、レーヨン等)は本剤の成分であるベンザルコニウム塩化物を吸着するので、これらを溶液に浸漬して用いる場合には、有効濃度以下とならないように注意すること。 6) 金属器具を長時間浸漬する必要がある場合には、腐食を防止するためにベンザルコニウム塩化物0.1%溶液に0.5～1.0%の亜硝酸ナトリウムを添加すること。 (2) 薬剤使用時の注意 1) 経口投与しないこと。 2) 眼に入らないよう注意すること。入った場合には水でよく洗い流すこと。 3) 皮膚の刺激症状があらわれることがあるので、注意すること。 4) 全身吸収による筋脱力を起こすおそれがあるので、炎症部位に長期間又は広範囲に使用しないこと。 5) 密封包帯、ギプス包帯、パップに使用すると刺激症状があらわれることがあるので、使用しないことが望ましい。 6) 血清、胆汁等の有機性物質は殺菌作用を減弱させるので、これらが付着している場合は、十分に洗い落としてから使用すること。 7) 石けん類は本剤の殺菌作用を弱めるので、石けん分を洗い落としてから使用すること。 8) 皮膚消毒に使用する綿球、ガーゼ等は滅菌保存し、使用時に溶液に浸すこと。 9) 合成ゴム製品、合成樹脂製品、光学器具、鏡器具、塗装カテーテル等を変質させることがあるので、注意すること。 10) 皮革製品の消毒に使用すると、変質させることがあるので、使用しないこと。 11) 吸引カテーテルの浸漬消毒に使用する本剤の溶液は、少なくとも毎日新しい溶液と取り換えること。			頻度不明	過敏症	発疹・そう痒感等	包 装 500mL(ポリ容器)																					
	頻度不明																										
過敏症	発疹・そう痒感等																										
1. 副作用 次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には使用を中止するなど適切な処置を行うこと。 2. その他の副作用 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>頻度不明</td> </tr> <tr> <td>過敏症</td> <td>発疹・そう痒感等</td> </tr> </table> 3. 臨床検査結果に及ぼす影響 本剤で消毒したカテーテルで採取した尿は、スルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。 4. 適用上の注意 (1) 薬剤調製時の注意 1) 本剤は、濃度に注意して使用すること。 2) 炎症又は易刺激性の部位(陰股部等)に使用する場合には、正常の部位に使用するよりも低濃度とすることが望ましい。 3) 希釈水溶液を調製する場合は、滅菌精製水を使用すること。 4) 水や容器は微生物汚染を受けやすく、まれに消毒液に抵抗性を示す微生物が含まれることがあるので、本剤を取扱う容器類は常に清潔なものを使用し、希釈水溶液は、調製後直ちに使用すること。 5) 繊維、布(綿、ガーゼ、ウール、レーヨン等)は本剤の成分であるベンザルコニウム塩化物を吸着するので、これらを溶液に浸漬して用いる場合には、有効濃度以下とならないように注意すること。 6) 金属器具を長時間浸漬する必要がある場合には、腐食を防止するためにベンザルコニウム塩化物0.1%溶液に0.5～1.0%の亜硝酸ナトリウムを添加すること。 (2) 薬剤使用時の注意 1) 経口投与しないこと。 2) 眼に入らないよう注意すること。入った場合には水でよく洗い流すこと。 3) 皮膚の刺激症状があらわれることがあるので、注意すること。 4) 全身吸収による筋脱力を起こすおそれがあるので、炎症部位に長期間又は広範囲に使用しないこと。 5) 密封包帯、ギプス包帯、パップに使用すると刺激症状があらわれることがあるので、使用しないことが望ましい。 6) 血清、胆汁等の有機性物質は殺菌作用を減弱させるので、これらが付着している場合は、十分に洗い落としてから使用すること。 7) 石けん類は本剤の殺菌作用を弱めるので、石けん分を洗い落としてから使用すること。 8) 皮膚消毒に使用する綿球、ガーゼ等は滅菌保存し、使用時に溶液に浸すこと。 9) 合成ゴム製品、合成樹脂製品、光学器具、鏡器具、塗装カテーテル等を変質させることがあるので、注意すること。 10) 皮革製品の消毒に使用すると、変質させることがあるので、使用しないこと。 11) 吸引カテーテルの浸漬消毒に使用する本剤の溶液は、少なくとも毎日新しい溶液と取り換えること。			頻度不明	過敏症	発疹・そう痒感等	主要文献 1) 第十八改正日本薬局方解説書、廣川書店、2021：C5320-C5324 2) ヤクハン製薬株式会社 社内資料：殺菌効果 3) ヤクハン製薬株式会社 社内資料：耐性菌消毒効果																					
	頻度不明																										
過敏症	発疹・そう痒感等																										

■ 詳細は電子添文をご参照ください。

品名	内容量 / 規格	1梱入数	商品コード	調剤包装単位コード	
				販売包装単位コード	(有効期限 %%%%) : 製造番号)
ヤクゾールE液0.1	500mL	20	44916	(01)04987696100367	
				(01)14987696449166 (17)***** (10)%%%%%%%%	

■ 製品は改良のため、予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。 ■ 写真及び印刷の仕上がり上、現品と色合いが若干異なることがあります。 ■ 記載内容は2024年4月現在のものです。

## サラヤ株式会社

〒546-0013 大阪市東住吉区湯里2-2-8  
<https://www.saraya.com/>

お問い合わせ先 TEL.06-6797-2525

製造販売元  
**ヤクハン製薬株式会社**

学術的なお問い合わせ先 学術部 TEL.06-4706-3938  
 (受付時間：平日 9:00～18:00)

〒061-1111 北海道北広島市北の里27番地